子ども夢ハウス おおつち建設 1億円募金運動

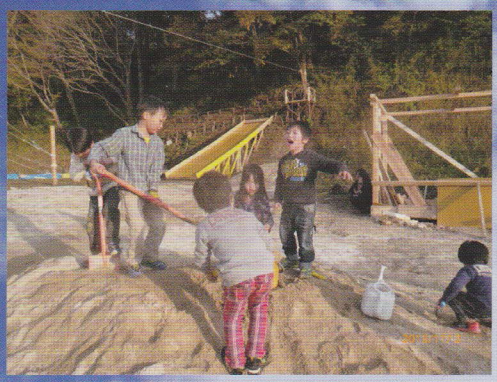
募金運動提唱　代表者　　藤原　　茂（夢のみずうみ村代表）
募金運動　共同提唱者　　笹原留似子（おもかげ復元納棺師）

第二期募金運動を展開するにあたって

東日本大震災で、町の大半が一瞬のうちに消えた大槌町において、子どもたちがいつでも駆け込めるハウスをつくろう。何でも相談でき、一緒に話を聴いてあげたり、遊んだりできる場所をつくろう。震災直後から、おもかげ復元納棺師として、被災地で300人を超えるご遺体納棺のボランティアをしてきた笹原留似子さんが言い出した。

夢のみずうみ村は、震災直後から、できる支援を模索して来た。第一期募金運動の呼びかけに多くの方々の賛同や、見知らぬ方々からの支援をたくさん得て9月末日現在、20,838,096円の募金が集まった。

笹原　留似子（おもかげ復元納棺師）　吉山　周作（子ども夢ハウスおおつち管理者）　藤原　茂（夢のみずうみ村代表）



あっという間に「子ども夢ハウスおおつち」が生まれた第一期事業（計画施設番号1）。さらに、「すりきず公園」と名付けた夢公園（計画施設番号3）が、ボランティアや地元住民の協力も得て10月14日に完成した。おおつちの子ども達は、仮設住宅と学校間をスクールバスで往復移動しているため、学校帰りの道草もできない。のびのびと遊ばせてあげたい。まっすぐボールが転がる野原が欲しい。鬼ごっこできる遊び場所が欲しい。そういう声を聞きつけ施設事業計画の順番を変え公園づくりを優先した。

第１期事業、並びに、修正した第２期事業（計画施設番号は第１期事業のまま）

募金達成額 1,500万円	計画施設番号1	**こども夢ハウスおおつち** ・岩手県上閉伊郡大槌町安渡 2−10−16 の　7LDK（2階建て） **2013年4月11日　目標達成・実現**
募金達成額 2,000万円	計画施設番号3	**「ゆめ」ランド：すりキズ公園と正式命名** ・タイヤジャングル、モンキーブリッジ、スライダーの遊具建設設置 **2013年10月14日　目標達成・実現**
募金達成額 2,500万円	計画施設番号2	**スープ屋「夢結び」**（車による移動販売） ・スープの宅配販売事業
募金達成額 4,500万円	計画施設番号4	**がやがやハウス**（就労支援事業所） ・就労支援事業所（くん製づくり、くん製グッズ販売） （障がい者、障がい児の集える場所としての機能も併設する）
募金達成額 9,000万円	計画施設番号5	**エルダー旅籠「夢長屋」** ・介護付きホテル（要介護者が、付き添い家族と共に宿泊できる） ・全国から、支援者の皆様の宿泊を可能とする宿

第二期事業への思い

第二期事業は、大槌に働く場所を産み出すことを重点的に進めたい。大槌では働く場所がないため、住民は町を出ていかざるを得ない。これから先、収益を生み出す事業を創生し、独立採算で運営できる体力を備えた施設を展開し、雇用を創出したい。

大槌町では、徐々に、海岸縁から土を持って地面を嵩上げする計画が進みつつある。この地域周辺で土地を捜し、**就労支援事業がやがやハウス（計画施設番号4）**のうち、燻製（くんせい）作りをメインとする作業場を建設したい。燻製グッズ販売と燻製販売を行う施設をつくり、大槌町の地場産業にしたい。震災前、大槌町には「燻製所」があった。再現したい。山口市で展開しているスープ屋を配食サービスと一体化し、**自動車で販売する事業スープ屋「夢結び」（計画施設番号2）**を展開したい。この2つの収益事業を第二期事業の重点課題として募金活動を展開したい。

その後、エルダー旅籠と称する介護付き住宅を併設した終（つい）の棲家（計画施設番号5）を建設したい。全国の有志の皆様が大槌に来て泊まって頂ける場所にしたい。

募金額1億円は高い目標であるが、津々浦々に、この運動を皆さんの手でひろげて頂きたい。

みなさんの心が浸み込んだ、手づくりの「子ども夢ハウスおおつち」を、全ての人々の「いきる原動力」にしたい。